

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
医療社会経済学	看護学科/4年次	令和3年度	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位 (16 時間)	必須	内海 健二 (非常勤) 実務経験有
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い] 資本主義経済の仕組みと現代の経済社会の構造を踏まえ、医療福祉における経済の仕組みを理解することで、経営に関する基礎的知識を養う。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)] ・市場経済の基本的仕組みについて説明できる。 ・医療や介護を絶対視せず経済社会のなかに相対的に位置付けて見ることができる。</p> <p>【実務経験】内海健二:総合病院の経営に関わる事務職としての実務経験有する 医療人としての経済観念の醸成が培えるよう事例を用いながら授業を展開する</p> <p>【準備学習】前回の授業の復習をして授業に臨む</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	授業の概要		
	経済学	市場 価格の決定	
2	〃	インフレとデフレ 円高と円安	
3	医療経済学	日本の財政(社会保障費)	
4	〃	医療サービスの特質	
5	〃	医療を取り巻く環境の変化 ①	
6	〃	医療を取り巻く環境の変化 ②	
7	医療経営学	経営管理	
8	〃	病院の組織	
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・適宜資料配布予定である。 ・必要時資料配布いたします。 		1)科目終了時の最終試験の評価(筆記試験):100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
英語コミュニケーション	看護学科/4年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30時間)	必須	ティム・マティソン (非常勤) 実務経験有
<p>[授業の目的・ねらい] 読解力と語学力の基礎を身につけ、国際化への関心をもつ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1.自分の意思を英語で伝えられる。 2.初級レベルの医学関係の英単語・表現が分かる。</p> <p>【実務経験】ティム・マティソン:実務経験有 初級レベルの日常英語や医学英語を理解できるよう、学生の興味を引き出せる授業を工夫する</p> <p>【準備学習】前回の授業の復習をして授業に臨む</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	A. 一般英会話 B. 基本的発音練習	自分の意思、好みを伝える 子音①	・自己表現:受け取る、断る、選択する ・「L」と「R」の正しい発音の仕方
2	A. 一般英会話 B. 基本的発音練習	入国手続き 子音②	・入国審査官の質問と答え方 ・「F」、「V」、「B」、「P」の正しい発音の仕方
3	A. 一般英会話 B. 基本的発音練習	ホテルの予約 子音③	・部屋の有無、宿泊費の尋ね方など ・「S」、「SH」、「TH」の正しい発音の仕方
4	A. 一般英会話 B. 基本的発音練習	道案内 母音①	・道順を尋ね、理解する ・「A」、「E」、「O」の正しい発音の仕方
5	A. 一般英会話 B. 基本的発音練習	許可を求める - 言葉遣い 母音②	・やるべきこととやってはいけないことの尋ね方 ・「O」、「EE」、「AR・ER」の正しい発音の仕方
6	A. 一般英会話 B. 医療英会話	海外で病気になったら 患者に尋ねる①	・病名、身体の各部分の名称、状態の説明の仕方 ・個人情報、身体の状態についての尋ね方
7	A. 一般英会話 B. 医療英会話	約束を作る 患者に尋ねる②	・招待の仕方、受ける・断る方法、予定の変更の仕方 ・病歴、家族についての尋ね方
8	A. 一般英会話 B. 医療英会話	食事を注文する 病歴について尋ねる	・料理の説明を求める、注文する方法 ・病歴、特に重病についての尋ね方
9	A. 一般英会話 B. 医療英会話	自己紹介 睡眠について	・自分や家族に関する質問の答え方 ・睡眠の習慣についての尋ね方
10	A. 一般英会話 B. 医療英会話	一日のスケジュールを確認する 食生活	・予定の説明の仕方と、変えた場合の謝り方 ・食生活についての尋ね方
11	A. 一般英会話 B. 医療英会話	買い物 健康と生活習慣	・服などの値段、支払い方法についての尋ね方 ・日々の生活についての尋ね方
12	A. 一般英会話 B. 医療英会話	郵便局のサービスを利用する 痛みについて尋ねる	・切手の買い方、小包発送の依頼の仕方 ・痛みについての詳しい尋ね方、説明の仕方
13	A. 一般英会話 B. 医療英会話	落とし物 インフルエンザの症候	・忘れ物の特徴の説明の仕方 ・インフルエンザに伴う病気についての尋ね方
14	A. 一般英会話 B. 医療英会話	お別れの言葉 - お礼を言う 健康診断	・別れの挨拶の仕方 ・各検査名とそれに関わる単語を覚える
15	まとめ		
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・クリスティーンのやさしい看護英会話.医学書院 ・T.マティソン.「Medical English Series」 ・必要資料はプリントで配布 		1) 科目終了時の最終試験の評価 :90% 2) 授業参加状況(遅刻・早退も含む) :10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
コミュニケーション トレーニングⅢ	看護学科/4年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位 (16 時間)	必須	佐藤洋子/南原由理子 他
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>就職試験に向け自己分析し自己洞察を深めるとともに、社会人として対人サービスを行う上での基本的なマナーを身につける。また、新人看護師として自分の意見や感情をアサーティブに表現できる能力を身につける。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <p>1.自己分析により、自己洞察した内容を記述できる。 2.社会人としての、対人関係に必要な基本的マナーを習得する。 3.新人看護師に必要なアサーティブなコミュニケーションの理解と技術を習得する。</p> <p>【準備学習】授業の復習、事前課題に取り組み授業に臨む</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	自己分析	1) 就職活動を始める前に「夢」を描こう 2) 「働く」とはなにか 3) 就職活動の成功の鍵を握る自己分析	
2	応募・採用試験編	1) 病院、施設訪問についての注意 2) 履歴書の書き方の注意点 3) 筆記試験・面接試験	
3	基本的なマナー	1) お辞儀と挨拶 2) 身だしなみのポイント 3) 立ち振る舞いの基本	
4	〃	1) 電話の応対 2) 敬意を伝えるコミュニケーション 3) 訪問お礼状	
5	〃	1) 内定お礼状 2) 就職試験報告書	
6	チームの一員として 仕事を進める	1) 情報の共有 2) 報告・連絡・相談 3) より良いチームワークのためのマナー	
7	建設的でさわやかに 対話する	1) 3つの自己表現スタイル 2) アサーティブな対人関係を築く 3) アサーティブなコミュニケーションの進め方	
8	まとめ	1) ケーススタディ	
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・平成30年度就職の手引き		1)出席状況.授業参加態度.課題にて総合評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シラバス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
精神看護方法論Ⅱ (生活)	看護学科/4年次	令和3年度	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須・選 択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30時間)	必 須	藤野 裕介 他(非常勤) 実務経験あり
<p>[授 業 の 目 的 ・ねらい]</p> <p>精神(心)に障害を持つことにより、引き起こされる日常生活行動について、その意味について考えることができ、対象を全人的に把握するために必要な系統的情報について学ぶ。精神保健福祉医療に関する法律の理解と共に、精神看護における援助の実際について学ぶことができる。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科看護における対象を「生活者」として捉えることができる。 2. 精神科看護の役割「治療的役割」と「日常生活行動の援助」、「服薬管理」について説明することができる。 3. 入院という「生活の場」での治療的かかわりについて説明できる。 4. 精神科におけるレクリエーションの意義、目的、役割について説明することができる。 5. 精神保健福祉に関する法律について説明できる。 <p>【実務経験】藤野裕介他:看護師として5年以上の実務経験。 病院における看護実践を教材とし、学生がイメージし考えやすく知識習得できる授業を行う</p> <p>【準備学習】 授業内容の復習ならびに次回授業の予習をテキストを用いて行う</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	精神科における 世界の潮流	1. 世界の精神科医療の現状 1) 世界における精神看護の現状 2) 日本の精神医療の現状	*日本と他国との精神科医療の を理解する
2	精神保健福祉 をめぐる法律	2. 精神保健医療にかかわる法制度について 1) 法制度の変遷と基本的な考え方 2) 精神保健福祉法 他	*人権擁護、医療受ける、生活 個人情報の保護 *精神保健福祉法
3	精神科看護における 治療的かかわり	3. 精神科看護における援助の実際について 1) 「治療的関わり」:コミュニケーション ①ケアを提供する上での人間関係のポイント ②ケアを通じて自分を知り、対象を理解する 2) 日常生活行動の援助 3) 服薬治療における援助 4) 疾患の特徴と援助	*コミュニケーション *看護師自身のストレス *セルフケアレベル *対人関係の把握 *抗精神薬の有害反応に対す *薬の服薬方法や副作用も含
4			
5			
6	リハビリテーション <small>*作業療法士の先生による授業</small>	4. 精神科リハビリテーションの考え方 1) 精神科におけるリハビリテーションの 意義・目的・役割・他職種との連携(看護職に期待すること)	*レクリエーション *コラージュ療法
7		2) レクリエーションの実施方法 3) レクリエーションの実際	
8	精神科看護における	5. 「生活の場」としての治療環境	*実習を振り返り進めていく
9	援助の方法について	1) 入院治療の意味を理解する 2) 入院の仕方と入院治療の目的 3) 治療的環境をつくる 4) 家族への援助 5) 他職種との連携	*入院治療の目的 *家族背景・生活体験・成育歴 *保護室、閉鎖病棟、開放病棟 *精神科病棟でのミーティング *安定した生活を継続するため
10			
11			
12	地域包括ケア	6. 精神看護における地域包括ケア 1) 地域包括ケアの現状と課題 2) 地域で生活するための原則 3) 社会資源の活用	*就労継続支援・移行支援等 *訪問看護 *グループホーム *ショートステイ
13			
14	まとめ	7. 国家試験対策	
15	試験		
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・出口禎子他編:精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ・出口禎子他編:精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版 ・他、資料を適宜配布		1) 試験は100点満点 2) 本試験は60%以上の場合を単位認定とする 3) 授業への取り組み状況を評価の対象とする。	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
精神看護方法論Ⅲ (看護過程)	看護学科/4年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	奈良 育代 他 実務経験有
<p>[授業の目的・ねらい] 精神に障害を持つ対象とその家族を対象に、根拠に基づいた看護過程の展開の方法を、主にペーパーシュミレーションによる演習を通じて展開方法を学ぶ。 退院後の生活を視野に入れた関わりを退院支援の視点で学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主な精神疾患事例の対象とその家族に必要な情報を系統的に収集できる。 2. 収集した情報に対してアセスメントができる 3. 対象の状態を看護診断して目標設定でき、看護計画が立案できる。 4. 退院後の生活を見据えた看護について考察することができる <p>【実務経験】奈良育代:看護師として5年以上の実務経験 事例を用いてアセスメントから計画立案まで一貫した思考ができるよう演習を工夫する。</p> <p>【準備学習】 既習学習の想起、調べ学習や課題に取り組み授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	看護援助するための技術	1) 看護過程の展開(1-5回) 事例を通じて看護過程の展開 (患者-看護関係を理解) 事例:統合失調症	
2	〃		
3	〃		
4	〃		
5	〃		
6	〃	2) 上記事例より 精神保健福祉制度の現状と課題を踏まえて 対象が望む地域生活を送るための支援について 考えることができる	事例を基に退院支援について考える
7	〃		
8	〃		
	試験	上記終了後前期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・出口禎子他編:精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ・出口禎子他編:精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版 <p>[参考図書]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NANDA国際ナショナル、NANDA-I 看護診断定義と分類、医学書院 		<ol style="list-style-type: none"> 1)科目終了時の最終試験の評価:100% 2)授業参加状況(出席状況を含む)を考慮する 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
リフレクションⅣ (精神)	看護学科/4年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位 (16時間)	必須	奈良 育代/徳竹 律子 他 実務経験有
<p>[授業の目的・ねらい] 精神看護学の対象は、乳幼児期～高齢期に至るすべての人が対象である。本科目では臨地実習で体験した事例分析をとおして、“こころの健康”と心に障害を持つ人と家族のQOL、精神障害者の危機介入に視点をあて、基礎となる理論と実践を関連づけ学びを深める。 地域看護学の対象は、地域で生活しているすべての個人・家族、集団とそれらの人々が生活している地域である。臨地実習で体験した事例分析をとおして、地域の潜在している健康問題と住民のエンパワメント、保健医療サービスの公平性と施策化に視点をあて、基礎となる理論と実践を関連づけ学びを深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国における心の健康状態を社会の変化と関連付けて、データを示しながら説明できる。 2. 精神障害者と家族のQOLの維持・向上のために活用できる制度やサービスを法的根拠に基づき説明できる。 3. 精神障害者の危機において必要な看護を根拠に基づき説明できる。 4. わが国の人々の健康状態と保健行動の特徴をデータを示して説明できる。 5. 個々の活動事例から地域の潜在している健康問題を住民と共有し住民の主体的な活動する方法について説明できる。 6. 住民の主体的活動の支援や住民に必要な資源・サービス・制度等創る(施策化)ために必要な活動を説明できる。 <p>【実務経験】奈良育代・徳竹律子:看護師として5年以上の実務経験 学生が臨地実習での体験よりテーマを選択し、看護援助の意味づけができるよう支援する</p> <p>【準備学習】□ リフレクション内容をふまえて、基本技術や日常生活援助の目的、中範囲理論、先行研究を活用して意味づけができるよう学習する。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	精神看護学実習 看護リフレクションの実際	1)リフレクションフレームワーク	リフレクションのフレームワーク 記述・描写→感情→評価→分析→総合 →行動計画
2		事例紹介	
3		1)事例の分析・解釈、看護理論の適用	文献の活用
4		2)看護援助の意味、援助の価値	理論の活用
5	学びの共有	3)行ったケアの評価	・対人関係理論 ・アンドグラジー(成人教育理論) ・ケアリング ・セルフケア理論 ・ストレスとコーピング
6	プレゼンテーション準備	1)事例のリフレクションから学べたこと	
7		2)思考を広げまとめる	
8	事例発表	1)成果発表会のための準備	
		2)スライドの最終チェック	
		1)発表・まとめ	
	試験	上記終了後 期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
適宜紹介する [参考文献]		1)事例発表と参加度:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
在宅看護方法論Ⅱ(展開)	看護学科/4年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30時間)	必須	松原 文子(非常勤)実務経験有 佐藤 洋子 (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>疾病や障害をもちあなたが在宅で療養する在宅療養者と家族を生活者と捉え、看護における生活支援の実際を学ぶ。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <p>1. 在宅看護を必要とする療養者と家族を支援する社会資源の活用や関連職種との連携について理解できる。</p> <p>2. 訪問看護の事例演習をとおして、在宅療養者・家族の健康や生活状態に応じた生活支援のための具体的援助方法について理解できる。</p> <p>[実務経験]松原文子 佐藤洋子:保健師として5年以上の実務経験。 地域や病院での看護実践を教材とし、学生が学びやすい工夫を行い授業を行う。</p> <p>[準備学習]□ 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	在宅看護における看護過程	1. 在宅療養者・家族を一単位と捉える	在宅看護の場を知る 在宅看護の仕組みを知る 在宅看護の方法を知る
2		2. 在宅看護を学ぶ3つの視点	
3	社会資源の活用	1. 社会資源とは何か 【3・4回 松原文子】	・社会資源の種類 ・介護保険制度、障害者自立支援法 ・訪問看護制度 ・居宅介護支援センター 地域包括支援センター
4		1) 社会資源とは 2) 制度とサービス 2. 訪問看護ステーションの管理・運営 3. サービス調整・支援機関 4. 通所施設、短期入所施設	
5	家族をみる基盤としての生活力量モデル	1. 家族生活力量モデルとは 2. 家族生活力量の構成要素 3. 家族アセスメントの視点、アセスメントスケール	・生活力量 三層構造 ・12の構成要素 ・生活力量スケール
6	在宅療養者と家族への在宅看護の実際①	1. 長期臥床状態にある療養者と家族への看護(脳血管疾患後遺症)	・残存機能の維持・活用 ・合併症の予防と対策、褥瘡ケア ・社会資源の活用
7		1) アセスメントの視点 2) 療養者・家族への援助のポイント 3) 社会資源の活用	
8	在宅療養者と家族への在宅看護の実際	1. 実習事例による看護過程の展開 各実習グループでまとめる	・アセスメントの視点 ・療養者・家族の理解と援助 ・社会資源の活用、関連職種との連携
9			
10	演習内容の検討・発表等	事例演習内容のグループ内検討	
11		事例演習内容のグループ間検討	
12	まとめ	まとめ	
13			
14			
15			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・臺 有桂他編:在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ・臺 有桂他編:在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 [参考文献] ・単元に関する看護学のテキスト		1)科目終了時の最終試験の評価:100% 2)授業参加状況(出席状況を含む)を考慮する	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
リフレクションV (在宅・統合)	看護学科/4年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位 (16 時間)	必須	佐藤 洋子 他 (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>看護の対象は人間であり、看護の基本理念は「生命の尊重」である。本科目では、在宅看護論実習で体験した事例を素材にして、日々の臨地実習の中から看護の意味と価値を見出し、次の看護につなげていくためにはどうしたらいいのか。このような問題と向き合うために、自らが実践した看護を振り返り、内容を記述し、理論などを基盤にグループ員とともに分析と解釈を行うことが必要である。この過程を踏むことで複雑な現象を解く考え方が身についていく。更に社会で働くチームの一員として、医療及び他職種との協働の中で看護師として、看護を統括的に展開・実践できるよう基礎となる理論と実践を関連付けて学びを深める。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護リフレクションとは何かについて説明できる。 2. 臨地実習での事例を基に、研究的なリフレクションでの学びを説明することができる。 3. 看護リフレクションでの学びを共有し、思考の広がりを説明できる。 4. 看護リフレクションのグループ学習の成果を発表することができる。 <p>【実務経験】佐藤洋子(保健師):保健師として5年以上の実務経験 学生が臨地実習での体験よりテーマを選択し、看護援助の意味づけができるよう支援する</p> <p>【準備学習】□ リフレクション内容をふまえて、中範囲理論、先行研究を活用して意味づけができるよう学習する。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	看護とリフレクション	1)臨地実習における看護実践と看護経験 2)看護の経験の質とは何か、リフレクションとは何か	リフレクションのフレームワーク 記述・描写→感情→評価→分析 →総合→行動計画
2	在宅看護学実習 看護の統合と実践実習	1)リフレクションフレームワーク 2)事例の紹介 【グループ学習1】	看護の基本姿勢の理解 ・人間関係論 ・セルフケア理論 ・家族理論
3	看護リフレクションの実践	1)事例の分析・解釈 2)看護理論の適用 【グループ学習2】	人間の心理行動の理解 ・コーピング理論 ・不安、悲嘆、対象喪失
4	〃	1)援助の意味、援助の価値 2)行ったケアの評価 【グループ学習3】	看護援助、患者教育への活用 ・エンパワメント理論 ・自己効力感
5	〃	1)事例のリフレクションから学べたこと 2)思考を広げ まとめる 【グループ学習4】	・ソーシャルサポート
6	学びの共有	1)成果発表会のための準備 【グループ学習5】	・複数事例を受け持ち情報の整理 ・チームメンバー・リーダーシップ
7	プレゼンテーション準備	1)スライドの最終チェック 2)発表原稿作成 【グループ学習7】	・看護実践しながらの時間管理 ・他職種間の情報共有・調整
8	事例発表	1)発表 2)まとめ	・病院組織内の報告・連絡・相談の実際 ・チームとしての看護の役割 ・認定看護師としての院内における役割
			文献の活用 振り返り、十分に思考する パワーポイントの仕上げ
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・臺 有桂他編:在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ・臺 有桂他編:在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 [参考文献] ・単元に関係する看護学のテキスト		1)事例発表と参加度:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
看護管理論 (マネジメント)	看護学科/4年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1 単 位 (30 時 間)	必須	実務経験有

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

看護管理の担い手は看護職自身であり、看護サービスの提供はマイクロ・マクロの視点から複眼的に捉える必要がある。つまり、ベッドサイドあるいは担当地区の業務管理からはじまり制度・政策にまでかかわる。そこで、本科目では「看護マネジメント」として、保健医療福祉における看護の役割と責務を理解し、さまざまな場面で求められる看護マネジメント、変化する社会のニーズに対応できる質の高い看護の提供に向けてのシステム作りを学修する。また「リスクマネジメント」では看護事故防止と情報管理の側面からヒューマンエラーの防止に留まらず組織としてのシステム化からエラーレジスタント・エラートレナントについて看護サービスの質保証との関連から展開する。

[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 看護に求められるマネジメント機能を説明できる。
2. 看護提供のシステムを理解するとともに、新たなシステム作りの必要性を説明できる。
3. 医療現場のリスクマネジメントの基本的な考え方を説明できる。
4. 看護事故防止のために必要な具体的対策について提案できる。
5. 看護倫理、医療倫理、被援助者の権利について自己の見解を述べる事ができる。

[実 務 経 験]池内 眞理子:看護師として5年以上の実務経験。

病院における看護管理実践を教材とし、学生がイメージし考えやすく知識習得できる授業を行う。

[準 備 学 習]□

授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	看護と マネジメント	看護管理学とは	
2	〃	マネジメントとは 看護におけるマネジメント	・チーム医療
3	ケアのマネジメント	ケアのマネジメントと看護職の機能	・看護ケア提供システム、 プライマリナーシング、機能別看護方式
4	〃	看護基準と看護手順	チームナーシング、患者受持ち方式、その他
5	〃	患者の権利の尊重	
6	〃	安全管理	
7	〃	看護職の協働 他職種との協働 情報 研究成果の活用	・クリティカルパス ・リーダーシップとメンバーシップ ・電子カルテ ・看護実践の質の向上 認定看護師 専門看護師
8	看護サービスの	看護サービスマネジメント	・ゼネラリストとスペシャリスト
9	マネジメント	組織目的達成のマネジメント 協働のためマネジメント 情報・技術のマネジメント サービスの評価	・看護行政 看護職員の確保
10	看護をとりまく	看護の定義	・看護職員の資質の向上
11	諸制度	看護職	・第5次医療法改正
12	〃	看護実践の領域と場 医療制度	
13	マネジメントに	組織とマネジメント	・業務時間管理
14	必要な知識と技術	リーダーシップとマネジメント 組織の調整 組織と個人	・多重課題の危険性 ・多重課題発生時の対処の原則 ・リスクマネジメント、インシデント、ヒヤリハット
15	看護サービス管理 における今日的課題		・専門職能団体の活動 ・災害への備え・発災した場合の手順と行動
	試験	上記終了後 期末試験	

[使 用 テ キ ス ト]

吉田 千文他編:看護の統合と実践① 看護管理

[単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準](試験等の評価方法)

1)科目終了時の最終試験の評価 100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
国際看護論	看護学科/4年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	松本美弥/南原由理子 他 実務経験有
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>国際看護には他国における看護実践と、自国において人種、文化、価値観などを異にする在日外国人を対象とした看護実践がある。本科目では国際交流、国際協力における看護職の役割を、異文化の対象について、基本的知識・技術を学ぶ。また、在日外国人との交流を通して他国の文化・保健医療の現状を理解し、今後さらに増加が見込まれている在日外国人への看護と基本姿勢を養う。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際看護活動の支援を必要とする対象と推進する人や機関について説明できる。 2. 国際看護活動の実際の場面で活躍する人の話を聞き、国際社会における日本の役割が説明できる 3. 在日外国人との交流を通して、異文化を対象とした看護の必要性と保健医療の課題について説明できる。 <p>【実務経験】岡田・南原他:助産師あるいは看護師として5年以上の実務経験。 日本語学科(留学生・教員)との交流や外国での実践経験を教材とし、学生が学びやすい授業を工夫する。</p> <p>【準備学習】□ 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	国際看護とは	1)看護職になぜ国際的な視点が求められるか 2)国際看護の必要性	・国際看護の活動と歴史 ・WHOの役割 ・異文化看護
2	国内の在日外国人への看護活動	1)「国際看護」と「在日外国人」 2)在日外国人とは 3)在日外国人への看護活動	
3	異文化の対象理解	1)在日外国人が日本で働くということ 2)日本での生活の課題について	
4	在日外国人との交流	1)他国の文化の理解	2コマ 予習(グループ学習)
5	交流授業	2)保健医療の現状の理解	・国際交流授業に向けて、海外留学生の国の文化や医療福祉制度について予習する
6	予習2コマ 交流授業1コマ レポート作成1コマ	3)異なる言語を話す対象の理解 3)日本語学科の学生との交流 4)海外における文化の違いや保健医療福祉について対話する	・海外留学生との交流から、他国の保健看護の現状を知り、在日外国人に対する看護の役割や課題についてグループ学習を行う。 ・レポート作成 ～在日外国人との交流を通して、異文化を対象とした看護の必要性と保健医療の課題について～
7			
8	海外の現状	国際社会の現状について 赤十字社香川県支部より	
9	中国における看護活動	1)中国の文化と考え方 2)中国の医療保健福祉制度と看護活動	
10			
11	国際看護活動の実際	保健看護分野で活動した経験のある看護職の方より	
12			
13	異文化の対象における看護	特別講演 海外における健康観、病気対処行動	
14			
15	期末試験		
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
[参考図書] ・知って考えて実践する国際看護:医学書院 ・今がわかる時代がわかる世界地図:成美堂 ・他 適宜資料配布		最終試験評価:100% 最終試験受験資格:課題レポートを提出している者	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
看護研究Ⅱ (実践)	看護学科/4年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	榊原 智子 他(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>看護研究Ⅰで習得した知識・技術・態度を統合して看護研究に取り組み、卒後の研究活動への基礎づくりとするとともに、看護研究は卒後も継続するものである意識を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の手法を理解して、倫理的配慮がされた研究計画を立案できる。 2. 研究目的に適したキーワードを使って文献検索ができる。 3. 研究計画書に沿って収集したデータを適切に分析して論理的に考察し論文としてまとめることができる。 4. 研究成果を発表できる。 5. 研究論文をクリティカルに評価できる。 <p>【実務経験】榊原智子:看護師として5年以上の実務経験。 学生の既修得学習内容である研究の基礎的知識をふまえて、研究が能動的に進められるよう支援する。</p> <p>【準備学習】□ 看護実践内容をふまえて、研究のための調べ学習や文献検討に臨む。主体的に論文を作成し指導を受ける。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	オリエンテーション	看護研究Ⅰの復習 グループメンバー発表、以後はグループで実施し	<ul style="list-style-type: none"> ・看護研究Ⅰの内容の復習 看護研究とは何か 文献レビューは何のためにするのか ・看護研究の進め方について理解ができる ・抄録集作委員、発表会委員の選出 ・先行文献を検索する。 ・先行文献は3つ以上確認する。 ・A4レポート用紙20枚程度にまとめる。 ・成果発表会の進行について司会、記録、タイム管理は学生間で役割分担
2	研究課題の検討	研究課題についての討論	
3	研究方法の検討	研究目的を明確化する	
4	"	研究目的に沿った方法の検討	
5	研究計画書を作成	先行研究より概念枠組みを考える 文献検討 倫理的配慮	
6	研究方法を検討する	研究方法	
7		・アンケート用紙作成	
8		・アンケート集計 ・実験	
9	分析	分析方法 ・KJ法、内容分析、GTA等 ・記述統計、t検定等	
10	考察	再度文献検索をする 論理一貫性になるように文章を考える 結論 研究の限界	
11	研究成果の発表 発表会の運営	研究成果発表会	
12			
13			
14	自己評価・他者評価	相互評価	
15	まとめ	研究論文集の作成(製本)	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
川村佐和子他編:基礎看護学① 看護研究 メディカ出版 参考テキスト 松本孚・森田夏実:わかりやすいケーススタディの進め方ー研究テーマの設定からレポート作成のポイント		1)最終事例研究論文 2)出席状況:遅刻・早退を含む	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
看護の展望	看護学科/4年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30 時間)	必須	松本 美弥 他(実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>看護学会誌や看護職能集団の活動誌、看護に関連するボランティア団体の活動誌、看護系雑誌等を経年的に熟読したり、実際に活動に参加することにより、最新の研究及び社会の看護への期待を把握し、看護を展望するとともに看護の可能性を考察する。またこれまで受け持った患者の看護実践を振り返り、その患者や家族が本来の生活の場である地域(コミュニティ)で生き生きと暮らすための看護について考察する。そのことを通して自己の看護観を明らかにする。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 学会誌、看護に関連する活動誌や雑誌を熟読することで、最新の研究及び社会が期待する看護の役割を把握する。 看護学会等に参加することで、今後の看護を展望できる。 学外のボランティアに自主的に参加し、住民他多くの他職種の人々とのかかわりを通じて看護に期待されていることを実感し看護の可能性を考察する。 自己理解・他者理解を深め、自己の看護観をまとめて発表することで卒業後の看護実践を自覚する。 <p>【実務経験】岡田桂子:助産師・看護師として5年以上の実務経験。 わが国の動向、看護への期待、研究報告等を活用し、看護を展望するとともに看護の可能性を考察できるよう支援する。</p> <p>【準備学習】事前課題等に取り組み授業に臨む</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	授業のガイダンス	1)本単元の進め方 2)学会や学外活動の紹介 3)学習内容検討(GW) 4)学習内容の精選・学習計画 5)各自で学習計画作成	学習内容選択の視点 ・これまでの学習で関心が深まった看護分野 ・現在問題・課題となっている看護 例1. 災害看護 例2. 救急看護 例3. 国際看護 例4. 在宅看護 例5. 認定看護師・専門看護師
2	学習内容・計画の発表と学習計画の修正	1)全体発表と助言 発表内容 ・学習内容とその内容を選択した理由 ・学習計画	学外活動例
3	〃	2)学習計画の修正 3)同じ学習テーマ毎の計画の共有	・未熟児子育て支援「プレミの会」(5月) ・障害者スポーツ大会(8月) ・赤十字献血キャンペーン等(春・夏・冬) ・香川県助産師会「いいお産の日」(11月)
4	計画に沿った学習展開	1)学会誌、看護に関連する活動誌や雑誌を熟読	・思春期ピア活動
5	〃	2)学外活動に参加	【参加可能な学会例】 ・香川県内で開催される学会 ・近県で開催される日本看護協会主催の学会
6	〃	3)学会への参加	・近県で開催される災害等看護学会
7	〃	4)報告書作成	【発表およびレポートのポイント】 ・学習内容を選択した動機 ・学習経過 ・学び 社会が求めている看護と課題 看護の展望 学生個々の課題と自己研鑽の方向性等
8	計画に沿った学習展開	1)学会誌、看護に関連する活動誌や雑誌を熟読	・自分の看護への思いを自分の言葉で伝えられる どんな看護をしたいか今後の目標
9	〃	2)学外活動に参加	
10	〃	3)学会への参加	
11	〃	4)報告書作成	
12	最終発表	1)発表のための資料づくり(パワーポイント)	
13	〃	2)発表原稿作成 3)テーマ毎のグループ発表	
14	看護観発表	1)看護観の明確化 ・なぜ看護師になりたいと思ったのか ・心に残っている看護場面、体験内容 ・なぜそれが心に残っているか考えたこと	
15	〃		
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
必要時資料配布する		1)学外研修・学会参加報告書及び最終レポートの評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
救急蘇生法Ⅲ	看護学科/4年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30時間)	必須	吉川 圭 (非常勤) 実務経験有
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>近年,病院施設において病院施設内急変における対応能力の向上が強く求められるようになってきている. 2010年の「心臓血管蘇生に関する国際ガイドライン2010」では,早期の心肺蘇生開始と早期除細動,つまり一次救命処置の重要性が強調されており,病院施設内においては,心停止から3分以内の電氣的除細動実施を推奨している. 早期に一次救命処置を適切に実施できる医療者として,病院施設内急変の第1発見者になる可能性が最も高い看護師による自動体外式除細動器(Automated External Defibrillator:AED)を用いた除細動の実施は,救命率の向上に貢献できると考えられる. 看護基礎教育においても心肺蘇生法は基本的な看護技術の一つであり,この技術を確実に習得することは有意義である. そこで一次救命処置(Basic Life Support:BLS)についての知識や技術を深め, BLSの資格を得ることをめざす.</p> <p>〔授業修了時の達成課題(行動目標)〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 急変患者に対するの蘇生技術の理解ができる. 2 急変患者に対するの蘇生技術の実施ができる. 3 日本循環器学会によるBLS資格取得をめざす. <p>【実務経験】吉川圭:医師ならびに日本循環器学会におけるコースディレクターとして豊富な経験を有する. 科学的根拠もとづく正確な技術習得が図れるよう授業展開する.</p> <p>【準備学習】□ 救急蘇生に関する既習学習内容を復習して授業に臨む</p>			
〔授業の内容〕			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	BLSとは	1)授業の進め方 ・ACSへの対応 ・成人を対象とするBLS ・小児を対象とするBLS	講義と実技演習を組み合わせ,講義を内容の小テスト,実技試験を取り入れ実施する。
2	脳血管障害 循環器障害	1)脳血管障害患者への対応	各代表的疾患においては,事前学習を行い講義内容と関連させる。
3		1)電気ショックとCPRの優先順位 2)病院内Medical Emergency Team	
4	頰椎損傷	1)頰損疑いの気道確保 ・頰椎の非動化	成人の定義 思春期以降の年齢層を成人として対応する。(年齢としては15歳超をとす
5	溺水	1)溺水 ・偶発性低体温症 ・発見時の対応手順 ・通報とCPR開始の優先順位 ・呼吸の確認 ・回復体位	小児の定義 1歳から思春期以前(年齢として15歳程度,中学生までとする). 乳児は1歳未満とする。
6	BLS演習	1)胸骨圧迫なしの人工呼吸 2)心停止の確認 3)CPRの開始手順 4)人工呼吸 ・胸骨圧迫の位置・方法・評価・中断時期 5)C・V比	
12	〃	6)AEDプロトコール	
13	知識模擬試験	1)知識確認試験	
14	技術模擬試験	1)技術確認試験	
15	まとめ	1)上記の内容の復讐と演習	
〔使用テキスト〕		〔単位認定の方法及び基準〕(試験等の評価方法)	
1)これまでに使用したテキスト及び資料 2)BLSヘルスケアプロバイダーマニュアル. シナジー出版		1)授業への出席および授業参加状況(100%) 2)BLS資格取得ができること	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
災害看護論	看護学科/4年次	令和3年度	講義 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30時間)	必須	奈良 育代 他
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>災害に対する知識を深め、災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接にかかわっていることについて学ぶ。災害等の健康危機の発生時～復旧・復興期に必要な看護活動および平穏期における災害に備えるための看護活動を演</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の定義と災害看護の目的を説明できる。 2. 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響について説明できる。 3. 災害プロセスに応じた看護支援活動について実際の経験を通じて説明できる。 <p>【準備学習】□ 授業の復習とシラバスをふまえてテキストにて予習して授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	災害看護の概要	1)災害看護の歴史 2)近年の災害(震災)時の看護活動の実際について	
2	災害・災害看護の定義と目的	1)災害の定義	災害の種類と疾病構造
3		2)災害の分類と特性 3)災害看護の目的 4)自然災害サイクルと災害医療・看護	
4	災害看護制度とシステム	1)災害に対する法体系 2)災害支援の制度とシステム	
5	〃	3)災害支援に関する社会資源 4)災害発生時のネットワーク	
6	災害時の支援体制	1)災害ボランティア活動 2)国内外における災害関係機関の支援体制	
7	災害予防対策期の看護活動	1)個人の備え・集団での備え 2)避難のための支援必要者・実態把握	地域で災害予防期に行われている避難訓練に参加する
8	災害応急対策期の看護活動	1)初動体制 2)救護班・避難所での活動	
9	災害復旧・復興対策期の看護活動	1)避難所・仮設住宅・在宅支援者への活動	
10		2)PTSDへの対応	
11	災害時に必要な技術	1)トリアージ	病院等で行われている災害発生時の訓練の実際を体験する DMAT
12	〃	2)応急処置 3)搬送	
13	病院における災害看護	1)病院内での災害看護活動	
14	災害看護に関連する理論	1)危機理論	
15	まとめ	1)災害看護の研究の動向と課題	
試験		上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
酒井 明子他編:看護の統合と実践③ 災害看護 メディカ出版		1)科目終了時の最終試験(筆記試験): 100%	
必要時資料を配布する			

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
看護技術演習Ⅳ	看護学科/4年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	高橋 加代 他(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 看護実践には対象者がどのような看護を必要としているかを的確に捉え、判断する能力と科学的根拠に基づいて実践する能力が必要である。ここではその基盤となる観察技術や情報収集から対象の個別性を理解し、看護の方向性を見出し実施評価する。また4年間の集大成として知識・技術・態度を統合して看護のあり方を再確認することをねらいとする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)] 1. 事例患者の健康状態やニーズから必要な看護援助について根拠をふまえて説明できる。 2. 事例患者の健康状態やニーズをふまえて、必要な看護援助を安全・安楽・自立の視点、かつ時間制約の中で実施できる。 3. 実施した援助についてリフレクションできる。</p> <p>【実務経験】高橋加代:看護師として5年以上の実務経験。 学生の実習到達目標をふまえ、知識・技術・態度の統合が図れるよう支援する。</p> <p>【準備学習】□ 事例対象を理解できるよう学習に取り組む。また、事例患者に必要な看護援助を時間制約の中でできるよう練習する。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	看護の統合と実践 実習	1) 本単元の進め方のガイダンス	優先度の高い看護問題を抽出する 優先順位と時間配分を考慮する 業務計画の根拠を明確にする
2	演習	2) 演習オリエンテーション 模擬病院・模擬患者の提示	
3	〃	3) 模擬病棟での複数受け持ち患者の事例展開	
4	〃	4) 看護問題の抽出と目標・計画の立案	
5	〃	5) 複数患者の1日の業務計画の立案	
6	〃		
7	技術試験	6) 技術試験	
8	リフレクション	7) 看護マネージメント	
9	〃		
10	技術演習	1) 演習オリエンテーション 事例提示	・複合技術として評価する ・原理原則に基づいた技術の演習 ・グループ内でディスカッションを積極的にを行い技術を高める ・安全・安楽・自立・尊厳を考慮した技術
11	演習	2) 演習	
12	演習		
13	演習		
14	技術試験	3) 卒業前技術試験	
15	技術試験		
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
松下由美子他編:看護の統合と実践② 医療安全 メディカ出版		1) 各技術試験の評価100% * 技術試験に合格した者は、以後の実習に参加することができる。授業に臨む姿勢(準備・授業態度)も評価対象とする。	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
総合看護セミナー I	看護学科/4年次	令和3年度	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30 時間)	必須	高橋 加代 他 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 各領域の臨地実習や看護の統合と実践実習で体験した事例分析を通して、理論と実践を関連付け、基本的知識・技術のリフレクションを行い、卒業時目標の到達を図る。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. 基礎看護領域や看護の統合と実践を振り返り、基本的知識・技術を再確認できる。 2. 看護展開に必要な看護理論と基本的看護技術のポイントが説明できる。 3. 対象と家族を取り巻く問題を、医療・福祉・社会環境の視点で説明できる。 4. 対象を取り巻く環境の変化を人々の認識と行動、および法整備の観点から具体的データをあげて説明できる。</p> <p>【実務経験】高橋:看護師として5年以上の実務経験。 学生が既習学習の知識を想起あるいは復習し、確かな知識の習得となるよう能動的な学習を支援する。</p> <p>【準備学習】□ 課題等に取り組み授業に臨む。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	授業のガイダンス	1) 本単元の進め方のガイダンス	
2	基礎看護学領域	1) 看護技術の基本的な理解	ボディメカニクスを使い、移乗の援助 胸・腹部の聴診 清拭・洗髪・足浴 等
3		・コミュニケーション	
4		・フィジカルアセスメント	
5		・看護過程	
6		2) 日常生活援助技術	
7		3) 患者の安全・安楽を守る技術	
8		4) 診療に伴う技術	
9	看護の統合と実践	1) 看護活動展開の場と看護の機能	1年次からの知識・技術を統合した学習
10		・医療提供施設	
11		・保健所・市町村における看護	
12		・看護管理	
13		・関連職種と連携	
14		・災害看護	
15			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・各領域実習の記録と資料 ・各領域のリフレクションでの事例分析記録や資料 ・国試模擬試験・国家試験の問題集 		1)科目終了時の最終試験の評価100% ただし合格点80点、試験は再試験までとする	

授 業 進 度 計 画 (シラバス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
総合看護セミナーⅡ	看護学科/4年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30 時間)	必須	松本/南原/佐藤 他 実務経験有
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>各領域の臨地実習や看護の統合と実践実習で体験した事例分析を通して、理論と実践を関連付け、基本的知識・技術のリフレクションを行い、卒業時目標の到達を図る。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各領域の主な事例の看護実践を振り返り、基本的知識・技術を再確認できる。 2. 各領域の看護展開に必要な看護理論と基本的看護技術のポイントが説明できる。 3. 対象と家族を取り巻く問題を、医療・福祉・社会環境の視点で説明できる。 4. 対象を取り巻く環境の変化を人々の認識と行動、および法整備の観点から具体的データをあげて説明できる。 <p>【実務経験】南原・徳竹・岡田 他:看護師・助産師・保健師として5年以上の実務経験。 学生が既習学習の知識を想起あるいは復習し、確かな知識の習得となるよう能動的な学習を支援する。</p> <p>【準備学習】□ 課題等に取り組み授業に臨む。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	人体の構造と機能	1) 本単元の進め方のガイダンス	
2	”	2) 人体の構造と機能の理解不足の補講	
3	臨床薬理学	1) 国家試験の薬物療法の問題より再現	・抗がん薬・抗菌薬 ・ステロイド療法 ・心・血管系作用薬
4	”		
5	”		
6	成人看護学領域	1) 消化器系の状況設定問題の患者設定再現	・ライフサイクルの視点 ・生活の再調整、QOLの視点
7	”	2) 脳神経系の状況設定問題の患者設定再現	・基本的な看護のポイント ・理論を活用した看護
8	”	3) 循環器系の状況設定問題の患者設定再現	
9	”	4) 運動器系・内分泌系の状況設定問題の患者設定再現	
10	小児・母性看護学領域	1) 小児の成長発達	・子どもの権利擁護 ・最新の保健統計
11	”	2) 母子保健の動向と小児保健統計 3) 小児の状況設定問題の患者設定再現 4) 母性の状況設定問題の患者設定再現	・成長発達を関連させた看護展開 ・母乳育児、マタニティブルー
12	精神看護学領域	1) 精神系の状況設定問題の患者設定再現	・現代社会と心の健康状態
13	老年・在宅看護学領域	1) 老年期に特徴的な患者設定再現	
14	”	2) 在宅看護に特徴的な患者設定再現	・必要な資源・サービス・制度等
15	”	3) 在宅看護に特徴的な患者設定再現	
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・各領域実習の記録と資料 ・各領域のリフレクションでの事例分析記録や資料 ・国試模擬試験・国家試験の問題集 		1) 科目終了時の最終試験の評価100% ただし合格点80点、試験は再試験までとする	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
老年看護学実習Ⅰ (認知症他)	看護学科/4年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
	2単位 (90 時間)	必 須	林 晶子 / 徳竹 律子 他 実務経験有
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>老年期にある対象の発達段階と加齢現象および健康障害による問題を把握し、人間を統合的に理解しながら対象と家族に応じた知識、技術、態度を習得する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特性を説明できる。 2. 対象のセルフケア能力をふまえ、残存機能を活かした日常生活援助ができる。 3. 健康障害の複雑性・多様性を理解し、健康レベルに応じた援助ができる。 4. 対象および家族が社会資源を活用できるよう援助する。 5. 対象の生活史を理解し、価値観・自尊心を尊重した倫理的行動がとれる。 6. 老年期にある対象との関わりを通して自己の老年観を発展させることができる。 <p>【実務経験】林・徳竹他: 看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】□ 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授 業 の 内 容]</p> <p style="text-align: center;"><実習展開> 詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設は介護老年保健施設、介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、認知症病棟とする。 2. 実際に入所・通所している高齢者と触れ合う。 3. レクリエーション活動の企画・運営・参加をする。 4. 日常生活援助の実習をする。(入浴・洗髪介助、更衣介助、食事介助、トイレ誘導、おむつ交換など) 			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
老年看護実習ガイド、老年看護学概論老年看護学方法論Ⅰ～Ⅱで使用したテキスト及び演習で配付した資料など		1)実習評価表による評価 2)出席状況(遅刻・早退を含む) 3)事前学習、カンファレンスへの参加、課題レポート等	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
精神看護学実習	看護学科/4年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
	2単位 (90 時間)	必須	奈良 育代/徳竹 律子 他

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

精神に障害をもつ対象を理解し、個別的なかかわりの中で病気としての行動や人間としての行動を理解し、対象を総合的に把握すると共に健康を回復するための看護ができる能力を養う。

[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 積極的に患者に関心に向け、精神に障害をもつ対象を身体的・精神的・社会的側面から統合的に説明できる。
2. 精神医療の特徴と看護の役割を説明できる。
3. 患者とのコミュニケーションをとる中で徐々に関わりの発展を示し、対象の健康の回復に向けた看護が展開できる。
4. 患者の立場に立って思いや行動を理解することを通して、自己の感情や行動の傾向に気づき、自己の対人関係発展することができる能力を養う。

【準備学習】□

実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む

[授 業 の 内 容]

＜実習展開＞ 詳細は、「実習の手引き」を参照

1. 精神患者の慢性期患者を受け持ち、看護過程を展開する。
2. それぞれ1日、急性期病棟・デイケア・断酒会・院外活動の実習を行い、慢性期との違いを知る。
3. レクリエーションを実習グループで考え、企画・実施する。
4. 実習中において関わった患者とのやりとりをプロセスレコードとして記録する。
グループミーティングを行い、新たななかかわり方を学ぶ。
5. 自分自身の振り返りを行い、接し方について学ぶ。

[使用テキスト]

・出口禎子他編:精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版
 ・出口禎子他編:精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版
 ・精神科方法論Ⅰ～Ⅲで使用したテキスト及び演習で配付した資料・「用語集」・「プロセスレコードについて」など

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1)実習評価表による評価
- 2)出席状況(遅刻・早退を含む)
- 3)事前学習、カンファレンスへの参加、プロセスレポート等

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
在宅看護論実習	看護学科/4年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
	2 単 位 (9 0 時 間)	必 須	佐藤 洋子 他(実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>在宅療養支援における在宅看護の機能・役割および特性を理解し、在宅看護活動のあり方や課題について学ぶ。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の中で生活する療養者とその家族を総合的にとらえ、療養者とその家族が抱える問題をアセスメントし、問題解決能力を養う。 2. 地域の中で生活する療養者とその家族に対する生活支援の実際を経験することによって在宅看護の理解を深める。 3. 在宅療養者とその家族を支える必要な社会資源を理解でき、その活用方法および連携について説明することができる。 4. 在宅で生活している在宅療養者とその家族を支援する在宅看護を通じて、施設内看護の役割と機能について考察できる。 <p>【実務経験】佐藤他:保健師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】□ 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授 業 の 内 容]</p> <p style="text-align: center;"><実習展開> 詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.香川県内の訪問看護ステーション、デイケア、デイサービス等において、学生を配置する。 2.実習期間中は適宜、学内でまとめを行う。実習終了後には、学びの発表を行う。 3.初回訪問時は実習について説明をし、対象者の同意を得る。 4.訪問看護実習は訪問看護師に同行し1名は継続(2～3回程度)して受け持ち看護の視点より生活支援のあり方を学ぶ。 5.対象により関係機関・関係職種との連絡会等がある場合は、可能な範囲で参加する。 6.可能な範囲で在宅療養者とその家族を支援している社会資源に参加する。 			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・既習テキスト		1)実習評価表による評価 2)出席状況(遅刻・早退を含む) 3)実習態度(カンファレンスへの参加状況等) 4)実習レポート 10%	} 90%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
看護の統合と実践実習	看護学科/4年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業時間数	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
	2 単 位 (9 0 時 間)	必須	高橋 加代 他(実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>チームの一員として、医療及び他職種との協働の中で看護師としてのメンバーシップやリーダーシップを理解すると共に、看護を統括的に展開し、看護の実践能力を高めることをねらいとする。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の対象を受け持ち、ケアの優先順位を判断し、看護実践ができる。 2. 看護チームのチームメンバー及びチームリーダーの役割を理解する。 3. 看護管理の実際を知る。 4. 診療の補助技術を安全性・効率性を考慮しながら見学及び一部実施ができる。 <p>【実務経験】高橋他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】<input type="checkbox"/> 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授 業 の 内 容]</p> <p>〈実習展開〉 詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日勤業務の1日の流れを知る。 2) 複数受け持ち制での受け持ち患者の現在の状態を把握できる。 3) 受け持ち看護師が立案した看護計画に沿って、複数の受け持ち患者に必要なその日の援助計画を立案することができる。 4) 複数の受け持ち患者に必要な援助を、優先順位を考えて実施することができる 5) 医療チームの一員として報告・連絡・相談ができる。 6) 援助を時間内に行うなど時間管理の必要性を認識できる 7) 看護チームでの看護師の役割を理解できる<input type="checkbox"/> 8) 医師への報告・連絡調整について理解できる。 <input type="checkbox"/> 9) チーム及びスタッフへの連絡調整が理解できる。<input type="checkbox"/> 10) 看護部の役割が理解できる。 11) 安全管理、感染管理が理解できる。 <input type="checkbox"/> 12) 物品管理、部下の教育指導、勤務時間管理が理解できる。 13) 病院内外の部門との連絡調整について理解できる。 <input type="checkbox"/> 14) 診療の補助技術の見学と実施ができる。 			
[参考資料]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
		1)実習評価表に示す基準に基づいて評価する 方法:実習状況、実習記録、レポート、出席状況から行う	